

かお・人・interview

2024年2月5日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
熊本河川国道事務所 所長

福井 貴規氏

FUKUI Takanori

熊本の豊かな自然は周知の通りだが、近年は、有名な半導体企業がこの地域に集結する。熊本が選ばれる大きな理由は、豊富な水資源と南北に走る九州縦貫自動車道などの地理的条件が大きい。地域経済を活発にする好機を活かすためには、地域の防災力を含めた総合的なインフラ整備、ハード面とソフト面の強化を促すことが必要だ。現在取り組んでいる事業や課題などについて福井所長に話を伺った。

Q所長就任にあたっての抱負

九州、熊本への赴任は初めてのため、知らないことばかりで全てが新鮮に感じています。その初めてを強みにしてニュートラルな視点で地域の現状や課題を捉え、関係機関や事務所職員などと意見を交わしながら、熊本を更に良くするために何をすべきかを見極めて行動に移していきたいと考えています。

熊本河川国道事務所では、九州中央自動車道や中九州横断道路など直轄国道の整備や白川、緑川の河川整備を推進しています。第一印象はとにかく事業量が多いということ。加えて、道路事業、河川事業のいずれも整備効果の高い重要な事業であり、地域からの期待の大きさも強く感じています。半導体関連企業の集積をはじめ、様々な側面から熊本が全国的に注目を集めている今こそが、県内のインフラ整備を力強く進める重要なタイミングと捉えて、着実に事業を進めていきたいと考えています。



▲九州中央自動車道（山都潤橋IC）

また、今回の赴任は7月上旬の梅雨前線に伴う大雨災害が発生している最中での着任となりましたが、やはり九州は他の地域と比べて雨の強度が非常に強いと感じました。自然の外力が大きい地域だからこそ、ハード面だけでなく、ソフト面も含め、地域の防災力強化に向けて、国土交通省としての役割をしっかりと果たしていきたいと考えています。

Q当事務所の紹介

当事務所は、河川事業では、阿蘇カルデラに源を発し、熊本市を貫流する「白川」、および流域内に歴史的土木施設・かんがい施設や良好な自然環境を有する「緑川」の直轄管理区間延長72.5km



(ダム管理区間を除く)の管理と整備を行っています。道路事業では、国道3号、国道57号、国道208号および九州中央自動車道の直轄管理区間延長303kmを管理し、地域間・都市間連携強化のための改築事業や交通安全対策事業などを推進しています。

また、事務所組織は、事務所幹部、17課、7出張所で構成し、職員数は期間業務職員まで含め、約190名。熊本市東区の事務所のほか、河川の3出張所(白川、緑川下流、緑川上流)及び道路の4出張所(阿蘇、山鹿、熊本、八代)で現場の管理を行っています。

Q今年度の事業概要

河川事業の白川では、令和2年1月に策定(変更)した「白川水系河川整備計画」に基づき、基準地点である代継橋の目標流量 $2,400\text{m}^3/\text{s}$ に対応とした河道整備として、下流域の中原・小島地区の堤防整備や熊本市街部の「緑の区間」の整備を進めています。また、洪水時の流下能力上ネックとなっている下流域の固定堰群改築に向けて、関係者等と調整をしながら検討を進めています。

緑川では、高潮に対し脆弱な緑川河口域と浜戸川において、高潮対策として、令和2年度末の第一ステップT.P.4.5m(平成11年台風18号対応)の堤防整備概成に続き、河川整備計画上の高潮堤防高T.P.6.0mまでの

整備を進めています。このほか、治水安全度の低い支川加勢川において、下流より順次、河道掘削を進め、流下能力向上に取り組んでいるほか、令和3年度より、緑川上流甲佐町において「船津地区河川防災ステーション」の整備を進めているところです。

また、気候変動による水災害リスクの増大に備えるため、従来の河川区域での河道掘削や築堤などによる治水対策に加え、集水域や氾濫域のあらゆる関係者(国、県、市町村、企業、住民等)が連携して対応していく「流域治水」に取り組んでいます。今後も関係機関との連携を図りながら計画的に治水対策を実施するとともに、それぞれの河川の特徴を活かした川づくりを推進します。

道路事業は、将来の熊本県内の道路ネットワーク計画を示



▲白川「緑の区間」(堤防嵩上げ状況)



▲緑川河口域の高潮堤防(T.P.6.0m)



▲大津熊本道路(上生(わぶ)川橋下部工工事)



した「熊本県新広域道路交通計画(令和3年6月策定)」を踏まえ、各事業を進めています。熊本市と宮崎県延岡市を結ぶ九州中央自動車道(山都中島西IC～山都通潤橋IC)については、令和6年2月の開通に向けて、現在、工事が最終段階を迎えております。また、九州中央自動車道の一部を構成する「矢部清和道路」、「蘇陽五ヶ瀬道路」や「中九州横断道路」の一部を形成する「竹田阿蘇道路」、「滝室坂道路」、「大津熊本道路(大津西～熊本)」の事業を推進しています。

さらに、福岡県、佐賀県、熊本県の沿岸部を結ぶ有明海沿岸道路について、今後、熊本県区間を着実に進められるよう必要な調査検討を行うとともに、「熊本県新広域道路交通計画」に新たに位置付けられた熊本都市圏の3つの高規格道路の具体化について、熊本県や熊本市と連携しながら検討を進めて参ります。

Q 地域との連携・協働について

白川や緑川の流域では、河川協力団体をはじめ、多くの市民団体が河川をフィールドに活発に活動されており、あわせて河川の美化活動や地域の防災教育などに取り組んでいただいています。



▲しらかわの日・流域一斉清掃

また、道路においても、ボランティア・サポート・プログラムや道守活動として、多くの地域や企業の皆さんに道路の美化清掃等の活動を行っていただいております。それぞれの地域で様々な活動に取り組まれている各団体のネットワークは、より多くの地域の方々が河川や道路に親しみ、様々な課題を自分事として考えていただくきっかけとなり、さらには河川管理者、道路管理

者、地元自治体とうまく連携することで、より良い地域づくりや地域の防災力を高める上で非常に大きな力になると考えています。今後、一層コミュニケーションを強化していきたいと考えています。

Q 地域建設業への要望・メッセージ

熊本は近年、平成28年の熊本地震や令和2年7月の豪雨災害など、非常に大きな災害を経験してきました。災害発生時に実際に現場で対応していただくのは地元の建設会社、測量設計会社、地質調査会社などです。地元の建設業界が元気であれば、その地域の災害対応力は高いといえ、その逆の状況もあり得るということです。

建設業界が持続可能であることは、地域防災力を維持する上で極めて重要であり、若い世代が希望を持って働けるような環境を作っていくことが必要です。激甚化・頻発化する災害に加え、気候変動に対する世界的な関心の高まり、コロナ禍を経た価値観や働き方の変化、さらにはリスクが高まる世界情勢など、大きな転換期にある今だからこそ、その変化についていくことができれば、インフラを支える建設業界で働くことの魅力や価値が見直されるチャンスは大きいと考えています。待ったなしの状況にある担い手確保や2024年問題などの課題について、重要なパートナーである建設業界の皆さんと手を取り合いながら一緒に考えていきたいと思っています。

Q 趣味や健康法について

高校で始めたラグビーは、転勤に合わせて細く長く続けてきましたが、ここ5年間は運動とは全く縁のない生活を送っています。今回、単身での赴任のため、休日を有効に活用して、山や海など魅力あふれる熊本県の様々な場所にキャンプに行きたいと思っています。阿蘇をはじめとする熊本の雄大な自然を堪能しながら、健康にも気を使い、リラックスした時間を過ごしたいと考えています。

プロフィール



出身地：千葉県
 生年月日：昭和50年3月(48歳)
 H12年 4月 建設省入省
 H22年 4月 近畿地方整備局 道路部
 道路計画第一課長
 H23年 7月(独法) 国際協力機構 資金協力業務部
 H27年 2月 外務省 在中華人民共和国
 日本大使館 一等書記官

R1年 7月 関東地方整備局 高崎河川国道事務所長
 R4年 6月 道路局 企画課 国際室長
 R5年 7月 現職